

令和 7 年度 千葉県における「あかかます千葉県海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（ 1 ）千葉県におけるアカカマスの漁業実態

千葉県においてアカカマスは、刺し網漁業、まき網漁業、定置網漁業、小型機船底びき網漁業など様々な漁業で漁獲されている。本県における地区の多くではヤマトカマスなどを含む“ かます類 ”として水揚げされており全県の漁獲実態は不明だが、主に内房地区では“ アカカマス ” 銘柄として水揚げされている。

（ 2 ）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近 5 年間（平成 28 年から令和 2 年まで）の平均値（59 トン・県内主要港）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

該当する資源管理協定

「あかかます千葉県海域」に係る資源管理協定（以下、「協定」という。）は下表のとおりで、1 漁協所属の約 10 名がアカカマスを対象とした協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1 協定となっている。

協定	備考
富津	

本検証の対象協定

自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
刺し網漁業	休漁日の設定	漁協公休日	

協定に記載されている取組

(3) 資源管理の取組状況

本種の銘柄が設定されている本県主要漁協（目標における「県内主要港」と同義）におけるアカカマス漁獲量は年変動が大きく、12 トンから 88 トンの間で増減を繰り返しているが、2024 年の漁獲量は 52.3 トンとなっており、資源管理の目標において維持するとした平成 28 年から令和 2 年の漁獲量の平均値を回っている。協定参加者による検証（以下、自己点検という。）では、漁獲努力量は維持していると判断されたものの、漁獲量及び CPUE（単位努力量あたり漁獲量）は減少と判断されており、現状と一致している。また、魚価（単価）は増加と判断されている。

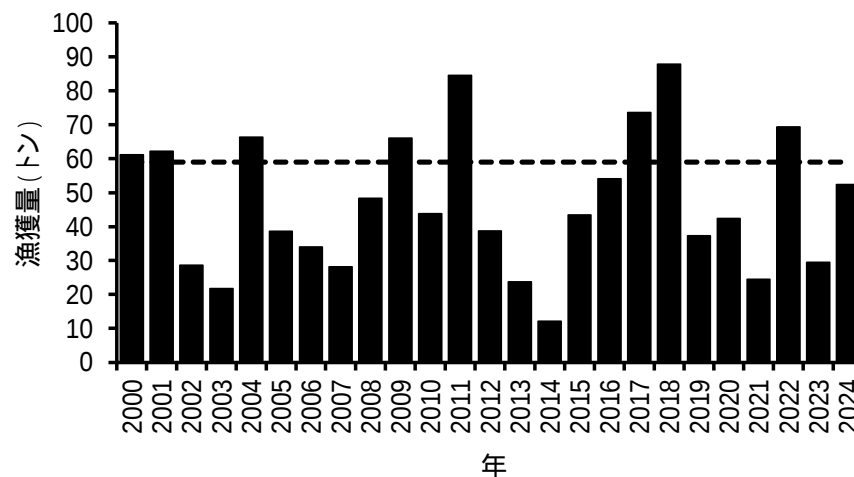


図 主要漁協におけるアカカマス漁獲量の経年変化（棒グラフ）及び
資源管理の目標とした漁獲量（点線）の比較（千葉県調べ）

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

アカカマスは休漁日の設定が実施されているものの、直近年の漁獲量は資源管理の目標を下回っており、自己点検では全協定で漁獲努力量は維持していると判断される中、漁獲量や資源の減少などにより「取組の効果は感じない」とされた。一方で、現在の取組が不十分とは判断されておらず、効果を感じられない要因は海洋環境による影響の可能性があるとは判断されている。実際に、協定参加者の主漁場である東京湾内湾は貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域であることも踏まえると、海洋環境が漁獲量や資源の減少の要因の 1 つと考えられる。現在、県では東京湾漁場環境改善に向けた一都二県の漁業者の取組の支援や、魚介類の産卵・生育の場である干潟の維持・保全を図るための覆砂等の取組を実施しており、漁業者による自主的な資源管理と共に推進していく必要があると考えられる。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。